

令和4年度

幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園

学校評価委員会（報告書）

令和4年度 幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園 学校関係者評価表

○ 教育目標 美しい心、よく動く体、豊かな感性と社会性を持った子どもの育成

1 目指す子どもの姿

・明るい子 ・健康な子 ・がんばる子 ・心豊かな子

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

項目	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
1 明るい子	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる ・遊びに意欲的に参加することができる。 ・友だちと一緒に楽しく遊ぶことができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体が挨拶を心掛け、声を掛け合う事ができ、明るい園にも繋がっていると思う。(全体) ・あいさつの大切さについて普段から話をしたり、絵本を通して伝えてきたので、朝帰り共に挨拶出来る子どもが増えてきたと感じる。(0.1.2) ・一人一人に挨拶することを心掛けてきたが、挨拶を返すことはできても自分から挨拶をする子がまだ少ない。自分から自然に挨拶できる様になってほしいと思う。(満 3.3.4.5) ・園庭を有効活用して、遊びを保育者と共にダイナミックに展開していけたらよいと思う。(全体) ・泥遊び等が苦手な子もいたが、共に遊ぶことで楽しみへと変わり、それらを経て各々が自分の遊びたい事を見つけられる様になった。(満 3.3.4.5) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問する度に、元気で明るい声を聞き、とても良い雰囲気を感じる。 ・職員の皆さんは、とても気持ちよく挨拶をしてくださる印象があります。保護者も巻き込み、子どもが自分から進んで挨拶できるように工夫して欲しい。

<p>2 健康な子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好き。 ・手洗い、うがい、睡眠などの習慣が身に付いている。 ・動植物などを大切にすることができる。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭での遊びの充実を目標に、職員間で意識改革をはかった。車乗り入れ時間・方法を含め様々な角度から考慮し意見を出し合うことで、環境の変化が少し生まれ改善に向かいつつある。(全体) ・体調管理のために手洗い・うがい・食事・睡眠などについて子ども達に丁寧に伝える事ができた。(満 3.3.4.5) ・病気にかかりやすく、保護者に注意喚起を働きかけるが、通院や休みの協力が難しい事が課題である。(0.1.2) ・サッカーやリレーを楽しんだり、体を動かして遊ぶことが多かった。コロナに関して体を守る、命を守ることの大切さを体験から学べた。(満 3.3.4.5) 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差があるので難しいと思いますが、しっかり取り組まれていると思う。 ・園で行う習慣が身に付き、家でも自然に出来るまでになっている。コロナに関係なく今後も続けて欲しい。 ・園庭などの子ども達の行動を見てとても活発で動き回っている姿を見ることができた。
<p>3 がんばる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで遊び、最後まで頑張ることができる。 ・考えたり、工夫したりすることができる。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の中で、特に排泄・食事・午睡等、自分で挑戦したいという気持ちが芽生えてきている。引き続き挑戦できる機会を増やしていきたい。(0.1.2) ・身近材遊びなど、自ら楽しめる子どもがかなり増えたが、まだ保育者が用意しないと新しい遊びが始まらない。自ら考える機会をもっと用意すべきだった。(満 3.3.4.5) ・“考えたり”という場面では課題が多く残る。大人の口数が多い分、子どもの考える力を奪ってしまっていることに気が付いた。どんな場面でも待つことが必要であった。その点に関しては、保護者との共有も必要だと感じる。(0.1.2) ・生活や遊びに意欲的な姿があるが、分からない事や出来ないことに直面した時、まず自分でやってみようと 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方を頼る子どもがいても良いと思う。 ・0.1.2 歳児、大人がある程度導いてあげることも大切だと思う。色々選べる様な関わりであって欲しいと思う。 ・自ら考え工夫し、出来上がったものに対して子どもが求めていた反応を先生方がしてくれたように感じる。達成感も得られていたように思う。

			<p>する姿が少ない様に思う。自分で考えて、試行錯誤する経験を意識して取り入れ、重ねていきたいと思う。 (満 3.3.4.5)</p>		
<p>4 心豊かな子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちを持つことができる。 ・友だちを思いやることができる。 ・感動し、感じたことを表現することができる。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりが増え、遊びに誘い合ったり、助けようとする姿が見られる反面、落とし物を見ても見ぬふりをしたり、自分の事を優先し周りが見えていないことも多い。何気ない優しさをもっと認めていき、相手に感謝や頼られる事を喜びあえるような援助が必要であった。(満 3.3.4.5) ・子ども達は、一人一人が頭の中で様々な事を考え、友達同士関わり合いながら学んでいる事をもっと伸ばしていきたい。(全体) ・以前よりも、自分の気持ちを表現する姿が多くみられるようになった。他者の気持ちに気付いたり、思い合えることを意識していきたい。(満 3.3.4.5) ・子どもの良い姿や感動したことがあった時は、その場で子ども達に伝える様にしていた。また、楽しかったことや嬉しかったことなども子どもと共有しながら分かち合う喜びを感じられるよう意識していた。 (満 3.3.4.5) ・感染状況に合わせ、緩和しつつ、特に異年齢の関わりを日頃から活発にしていきたいと思う。(全体) ・些細な事にも目を向け、喜ぶ事により他の子ども達も一緒に喜んだり、心配してあげる姿を多くみられる事が出来、心の成長を感じた。(全体) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝、思いやりは小さな子ども達には理解が難しい面もあると思うが、友だちを大切に、人を好きになる心は育っていると思う。 ・ファミリーデーや生活発表会を見学させていただき、とても縦割り関係がうまく行っているように感じた。 ・異年齢の関わりを通じて小さな子に優しくしてあげたり、年長児の凄さに触れる事ができていたように感じた。 ・保護者にもタイムリーに伝えることが出来ると、保護者から子どもを褒めたりすることができ、もっと子どもの成長につながると思う。

2 運営の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

項目	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者 評価	
1 幼保連携型 認定こども 園としての 円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等に対する職員の協働態勢の推進 ・職員の健康維持やワークライフバランスに対応した働き過ぎの防止(働き方改革関連の法改正への対応) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の整理が行えなかった。効率的に進めていく為に、業務のバランスを意識し明確性に分担できるよう努める必要がある。 ・0.1.2 歳児クラス担任は、保育室を離れる事が出来ずに、業務の伝達や話し合いへの参加が難しい時もあったため、より良い方法を考えていきたい。 ・日々の生活や行事等、学年の垣根を超え、声を掛け合い協力しながら取り組む姿勢を大切にしたいと思っている。 ・課題に対して話し合いを重ね、改善策を出し協力する体制が整ってきた。 ・ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園という形が無理で、不自然だと思っているが、それでもたちばな幼稚園の良さを失わずに行事などに取り組んでいて素晴らしいと思っている。 ・正・非職員の関係性を密にとることにより、子どもの安心安全に繋がる事を目指し欲しい。
2 子どもの健康・安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの健康状況の把握と、職員間での適切な情報共有に努める。 ・子どもが安全に過ごせる園の環境づくりに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな子どもの育ち、安心安全に留意しながら努めていった。クラス担任とクラス補助職員への丁寧な申し送りが出来るような時間をの確保と、共に学び合える研修時間を大切にしたい。 ・子どもの体調の変化は注意して見ている。遊ぶ際の環境設定も危険のないようできるだけ配慮している。 ・職員で園庭環境を考え合う研修や駐車場の扱いについて話し合う事が出来た。今後も 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ、動画などは、観る方は楽で良いのだが、発信する側の負担や責任が大きく多すぎるので、調整しながらバランスを保つ事が良いと思う。 ・1.2.3号と様々な登園スタイルや過ごし方の子どもがいる中、安全に配慮しながら遊ぶ環境も作ってくれてい

			子どもたちの為の環境づくりに努めていきたい。		と思う。
3 充実した保育・教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の三つの柱と、その具体的目標である幼児期の終わりまでに育てほしい 10 の姿を念頭においた質の高い保育・教育に努める。 ・遊びを主とした、子どもの主体的な取り組みを促す環境づくりに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10 の姿を常に考えて保育していたか振り返ると不十分だったと感じる。また、0.1.2 歳児の主体性を引き出すための保育者としての援助という点で大きな課題が残っているため、今後の保育に生かしたい。 ・遊びや対話からの学びを大切にという事を意識して保育にあたっていたが、時には教師主導になってしまう場面があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会の内容は、どのクラスも普通の遊びから子ども達が主体的に考え、広げ完成されていた様と思う。5 歳児になる程、子ども達同士の対話を重点に考えられていたと感じる。
4 園行事の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨や目的を明確にした、子どもが充実感や達成感を育む園行事の計画・実施に努める。 ・保護者支援や地域への情報発信に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ行事、活動の縮小をせずに従来通り行えるよう努めていった。ただし、地域と園が一体化できるようどのように働きかけていくか工夫が必要だと思う。 ・園行事に関して、話し合いを重ね皆で進め取り組むことができたと思う。 ・主旨、目的を共有しそれに基づいた計画を立てようという意識は基本として持って取り組んでいる。情報発信としてブログを活用し、出来る範囲で行っている。また、てのりの(動画配信)も始まったが、丁寧に対応できるよう心掛けたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で大変な思いの中で行事運営は難しい点が多々あったと思う。最小限の中で保護者や子ども達と向き合っていたと思う。 ・コロナ禍においても出来る事を形に変えて行っていたと思う。また、子ども達の特徴も考慮し変更した理由も保護者にきちんと説明されており納得できた。
5 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、短期大学部及び附属園・校との研修協力、実習協力、交流等を行い、附属園としての役割遂行に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、附属園（校）との交流がなかったが今後に期待し学びを深めたい。 ・大学・短期大学部・中高は交流実習などの受け入れができた。小学校との連携が図れ 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で仕方なかったとおもうが、今後更に向上意識を持ち取り組んで欲しいと思う。

		B	<p>なかった。幼小連携が重要とされているので、相手校に任せず、積極的なアプローチが必要であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが緩和されたら、もっと積極的に散歩等に出掛け、交流できたら理想的だと思う。 	A	
6 職員及び職員組織の力量の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取り組みを促す。 ・OJTの意識を持った日常的な研鑽をすすめ、園全体で取り組む研修に向けた協同的な研修による力量の向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭環境について、研修をすすめていく中で、日常の出来事に自分なりに意識を向け、遊びが充実する環境について考える事ができた。少しの変化で子どもの遊びが変わっていく事を実感し、今後も職員間で意見を交換し相談し合う時間を大切にしたい。 ・自己目標が設定しただけにならないよう常に意識して保育が出来る様に努力する必要がある。 ・自分なりに課題解決に努めたが、園全体への共通意識への促しが欠けていた。時間をかけて互いに意見を出し合い、より良い方向を目指すための話し合いの時間の確保が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士の関わりを更に深め、向上して欲しいと思う。

3 各学年の重点

学年	目標	評価	結果・課題	関係者 評価	
0 歳児	一人ひとりの生活リズムを大切にする。 ・よく食べ、よく眠り機嫌よく過ごす。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズムに合わせ安心して生活できるよう保育を進めてきた。 ・保育者や友達と触れ合う中で心を通わせながら楽しく遊ぶ経験をした。 ・生活の中で徐々に言葉の意味を理解し行動に結びついたり、喃語を話したりするようになった。 ・排泄面では、嫌がらずにおまるに座る事ができる様になり、タイミングが合えば排泄する子もいた。 ・食事面では月齢差が大きい為個々に合わせて手掴み食べからスプーンに移行している。イヤイヤ期に入り、好き嫌いを等の自己主張をする子もいるので励まし無理のない様援助しながら行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも微笑ましい姿を見せていただきました。先生方との関りが良いことが、子どもたちを見てわかる。
1 歳児	一人ひとりの生活リズムを大切に機嫌よく 1 日を過ごす。 ・よく遊び、よく食べ、よく眠る規則正しいリズムで生活できる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・綿パンツへの移行や逆手持ちでの給食、衣服の着脱等の生活習慣は 1 人 1 人に合わせて無理なく行ってきた。個人差はあるが身につけてきている。 ・言葉の獲得が伸びた 1 年であり、保育者や友達と言葉でやりとりができるようになり積極的に話しかけるようになってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・0 歳児同様、安心して生活しているのが伝わった。個人差が大きい時期ではあるが、一人ひとりに合わせた援助ができていると感じる。

<p>2歳児</p>	<p>一人ひとりに合った生活リズムに添って一日過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく食べ、よく眠る規則正しい生活リズムで機嫌よく落ち着いて生活できる。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状況を把握しながら、1年を通し、最終的には進級を意識した生活へ移行できるように計画し、実施した。 ・食事、排泄、着脱等、園生活で取り組んでいることは保護者へ伝え、家庭でもできる事は協力してもらうよう促した。意識してくださるご家庭は定着が早かった。保護者へ発信することの大切さを感じた。 ・進級時より生活習慣の自立が身についていたため全体的に落ち着いて1年を過ごすことができた。保育の連続性の大切さを強く感じた。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のペースに合わせ、丁寧に生活している様子が伝わる。
<p>満3歳児</p>	<p>幼稚園に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友だちと一緒に安心して過ごす。 ・好きな遊びを楽しむ。 ・基本的な生活習慣をする。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時期がそれぞれ違うため、一人ひとりに向き合い、丁寧に対応することを心がけてきた。 ・排泄や食事、衣服の扱い等、時期に合わせて個別に対応し、先に入園した友だちの良い影響を受けられるよう努めてきた。 ・毎日、元気に挨拶をすることで、大きな声で挨拶が出来る様になり、日々の積み重ねの大切さを感じた。 ・コロナ禍で保護者に対して参観会等で子ども達の様子を伝える機会がなかなか作れなかったため、連絡帳やお迎えの際に口頭で様子を伝えるようにしてきた。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の獲得は、小さな積み重ねによるものであり、丁寧に寄り添いながら導いてきた様子が伝わる。
<p>3歳児</p>	<p>友だちや保育教諭と一緒に好きな遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につける。 ・好きな遊びをのびのび楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活の仕方は、丁寧に伝えることを意識して繰り返し行ってきた。その中で、自分で出来た時は認め自信を持てるようにした。しかし、個によっては自分でや 		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ個性が違う子どもたちと関わる大変さ、子ども同士の間等、今後のステップの一步として大変で

		B	<p>る前に諦めたり、取り組めなかったりする姿もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して遊びに参加するようになったことで、友だちとのかかわりも深まり一緒に楽しもうとするようになった。次第に物の取り合いのトラブルから、友だちとのかかわりたい思いから生まれるトラブルへと変わっていった。そのため、その都度思いを伝え合えるよう一緒に向き合うようにした。 ・身近材遊びに興味を持ち、自分で材料を選択し工夫しながら取り組んだり、友だちの存在がさらなる遊びの楽しさに繋がり満足感を味わったりすることができた。今後も友だちと工夫して遊ぶことの楽しさを味わってほしい。 	A	<p>すが明るい雰囲気をととても感じた。</p>
4 歳児	<p>友だちとの生活を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に過ごす心地よさを味わう。 ・園生活のルールに気付く。 ・自分で好きな遊びを見つけ充実感を味わう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを見つけ、のびのびと楽しむことができた。また、その中で、友達とのかかわりも増えていき、思いを伝え合ったり、イメージを共有したりしながら遊びを進めることができるようになっていった。 ・自分の思いを押し通そうとするなどトラブルになることも多かったが、遊びや行事を通して思いやりの気持ちが育ち、自然と助け合ったり、励まし合ったりする姿が見られるようになっていった。 ・集団生活のルールを意識し、守ろうとしたり、落ち着いて話を聞いたりすることがで 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今を「一生懸命楽しむんだ」という積極的な雰囲気を感じた。

			<p>きるようになった。その反面、教師の指示を待つ姿も多くみられるので、自分で考えて行動できるよう引き続き援助していきたい。</p>		
5 歳児	<p>友だちと夢中になって遊び、認め合う気持ちを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して、友だちの思いを受け入れようとする。 ・集団で遊ぶ楽しさを感じる。 ・人の話を聞こうとする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲・関心が高い子が多く、自分でやりたいことを見つけ、楽しむ姿が多く見られた。遊びの中で、自分で考える力も培われていたと感じる。 ・ファミリーデーがきっかけとなり、年間通してリレー等クラス同士で戦ったり、ミッションに取り組んだりすることができた。クラスの団結も深まり、集団で遊ぶ楽しさを感じるようになった。 ・自己主張ができる反面、思いを押し通そうとしてしまうこともあったが、話し合いの場を多く設けていったことで、友達の声に耳を傾けたり、共通の目的に向かって共に考え合い、取り組んだりすることができるようになっていった。 ・話を聞くことの大切さや、落ち着いて行動することの大切さは、繰り返し伝えていった。個人差はあるものの、少しずつ意識の変化も見られていき、集団としての育ちが感じられるようになっていった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・さすが年長組という言葉や言動や言葉や行動や態度がとても感動した。 ・リレーやミッション、ドッチボールなどクラスで団結して頑張る、相手のクラスの頑張りをたたえ合う一年でした。 ・子ども同士で話し合う分、意見がぶつかった事も多かったがそんな時は先生がフォローされていました。友達や先生の意見を聞いたり、相手を尊重する学びができていたと思う。

・明るく楽しい園であることが、ファミリーデーや生活発表会から伝わっています。とても楽しく参観でき感動しました。

・3 歳児、4 歳児、5 歳児に対する先生方の態度や言葉使い等、良い所が子供達に伝わっている感じがあり、子ども達とより良い関係を築いていることが伝わった。